

平成 21 年度春季企画展

摂津・河内の新田会所

展示解説書



鴻池新田会所

摂津・河内の新田と会所の役割

大坂の新田は慶長15年(1610)の三軒村(大正区三軒家)の開発を皮切りに、淀川分流路(木津川・安治川)河口で春日出新田・市岡新田などが開発された。宝永元年(1704)には大和川の付け替え工事が終わり、旧大和川河床に安中新田・鴻池新田などが開発された。大和川の付け替えにより新大和川の河口にも土砂がもたらされ、享保15年(1730)以降、加賀屋新田・南島新田などが開発された。その後、大阪湾沿岸での新田開発は明治時代まで続いた。

これらの新田地主には有力な町人が多く、新田村不在地主であった。このため地主は新田村に会所を設けて支配人を任命し、新田村の管理、年貢の徴収、農地・道路・水路の維持管理にあたらせた。



摂津・河内の新田の分布と展示でとりあげる新田会所の位置

1 春日出新田会所, 2 加賀屋新田会所, 3 新喜多新田下会所, 4 吉松新田会所, 5 安中新田会所(植田家住宅), 6 三井会所(菱屋新田会所)※菱屋西・中・東新田を管理, 7 鴻池新田会所, 8 諸福新田会所, 9 平野屋会所 ※深野南新田・河内屋南新田を管理, 10 深野会所 ※河内屋北新田・深野北新田・深野中新田を管理

春日出新田会所(臨春閣) 大阪市此花区春日出南1丁目(横浜市三溪園にて移築保存・重要文化財)



元禄11年(1698)に雑賀屋七兵衛が開発した春日出新田は、享保7年(1722)に食野家の所有となった。また、紀州徳川家の別荘巖出御殿が会所として移築され、八州軒と呼ばれた。その後、天保10年(1839)には豊島屋・清海氏の所有、さらに、実業家原富太郎の所有となり、大正4年(1915)から横浜三溪園への移築が行われ、臨春閣と呼ばれるようになった。数寄屋風書院造りで、狩野派の襖絵が用いられる。

横浜市中区の三溪園で移築保存されている春日出新田会所主屋(臨春閣)と春日出公園にある八州軒跡の碑。

加賀屋新田会所 大阪市住之江区南加賀屋4丁目（大阪市指定文化財）

淡路町2丁目の両替商加賀屋甚兵衛が、延享2年(1745)から開発をはじめた加賀屋新田に建設した会所で、宝暦4年(1754)に竣工した。旧書院の愉園、茶室の鳳鳴亭、藏、四阿の明霞亭、待屋の偶然亭、表長屋門、冠木門、庭園が遺る。庭園は築山林泉回遊式で、築山の上には四阿が置かれ、昭和20年の空襲で一度焼失している。愉園は宝暦4年の建築当時のままと伝えられ、雪舟4代目の雲谷等益作の襖絵が用いられる。鳳鳴亭は文化12年(1815)以前に創建され、茶席・広間・水屋を備えた数寄屋風建物で、高床式の舞台造りで池に臨んでいる。鴻池新田会所とは対照的に、外側に表長屋門、内側に冠木門を構える。



加賀屋新田会所鳳鳴亭現況

新喜多新田下会所 大阪市城東区新喜多1丁目

大和川付け替えによって長瀬川河床に開発された新喜多新田に設けられた会所。新田の開発者は鴻池新十郎、鴻池喜七、今木屋多兵衛で、それぞれの頭文字をとって「新喜多」と命名されたとされるが、宝永年間の記録には所有者として鴻池新七の名前がみられる。宝暦5年(1755)までには今木屋の所有となり、以降、会所支配人を通じて新田経営を行った。新田地は狭長で旧国境で管理区域が2分され、上流側を上新田、下流側を下新田と呼び分けていた。上新田会所は昭和30年代に廃止されたが、下新田会所は主屋と門構えが現存し、数年前まで南側の道路に面して土蔵が建っていた。現在も今木屋の子孫にあたる早瀬家が所有する。かつての詳細な家屋の配置は不明であるが、いずれの会所にも敷地内には築山や池、祠、土蔵があったようだ。下会所には現在の敷地内にはかつての庭園にあったと考えられる手水石や石灯籠などがみられる。東大阪市森河内西の長瀬川に架かる早瀬橋は早瀬家に由来する。



新喜多新田下会所主屋の現況と昭和初期のようす。
昭和初期ごろと比べてもさほど大きく手を加えられていることはない。主屋奥側には2階建ての土蔵がみえる。

吉松新田会所 東大阪市吉松2丁目（現存せず）



昭和51年当時の吉松新田会所主屋

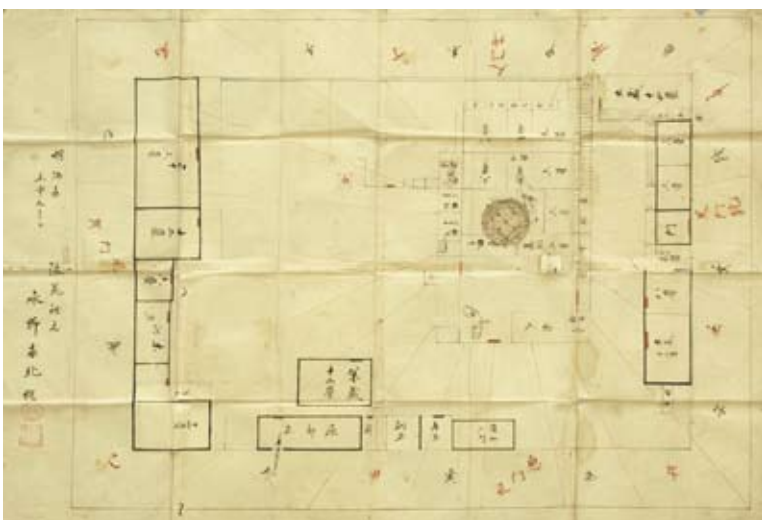
大和川付け替えによって長瀬川河床に開発された吉松新田に設けられた会所。開発者は末長甚兵衛で明治時代までにたびたび所有者が変わった。文化2年(1805)の新田支配譲り渡し状によると当会所の主屋は梁間四間、桁行九間で、昭和51年の調査時まで座敷部分の改築や2階部分の増築があった。また、この時には主屋に仏間や茶室がみられることから、廃絶時には個人宅としての要素が強かったようだ。敷地東側に池や築山、竜華神社を配した庭園をもち、主屋の南と北に土蔵が1棟ずつ、西に長屋門があった。

安中新田会所（植田家住宅） 八尾市植松1丁目（八尾市指定文化財）



安中新田会所全景（南より）

現在は八尾市の所有となり、解体修理をへて、一般公開されている。八尾市教育委員会提供。



明治5年安中新田会所家相図。八尾市教育委員会所蔵。

大和川付け替えによって長瀬川河床に開発された安中新田に設けられた会所。主として開発には玉手村の安福寺がかかわっていた。宝暦12年(1762)に植田林蔵が会所支配人となり、以降、植田家が支配人を引き継いできた。文政5年(1822)の家相図によると主屋は梁間5間、桁行6間で、明治5年には梁間5間、桁行10間に増築されている。また、蔵も増築されているようだ。また、仏間の記載がみられ、やはり個人宅としての要素が強い。敷地内には長屋門や土蔵がみられるが、池や築山、祠などはない。

三井会所 (菱屋新田会所) 東大阪市御厨5丁目 (現存せず)

大和川付け替えによって長瀬川・楠根川・菱江川河床に開発された菱屋新田を管理していた会所。新田地は3ヶ所に分散していたが、会所の機能は楠根川右岸の当地に集約されていた。開発者は新家村の菱屋正左衛門・岩之助で、のちに越後屋(三井家)の所有となる。天保7年(1836)の絵図の写しによると主屋は梁間6間、桁行8間程度と推測される。土間は20畳程度と小さい。敷地東側には池や築山、祠を配した庭園を、西側には土蔵や納屋、南側には長屋門をもつ。また、敷地の北側と東側には堀がみられる。会所は昭和30年ごろに廃止され、敷地西半は道路になった。現在、会所跡地には顕彰碑が設けられている。



三井会所跡地にある顕彰碑

鴻池新田会所 東大阪市鴻池元町 (重要文化財)

鴻池新田会所全景 (西より)



今橋2丁目の両替商3代目鴻池善右衛門宗利が、宝永2年(1705)年から開発をはじめた鴻池新田に建設した会所で、泉州大工利右衛門らが建築した。同5年(1708)の検地絵図には、本屋・表長屋門・米蔵ともう一棟蔵らしき建物が描かれている。また、神明宮も開設当初から祀られていた。さらに、享保6年(1721)の検地絵図では、支配人の役宅2棟も描かれている。その後も、延享3年(1746)に屋敷蔵、天明6年(1786)に文書蔵、元文5年(1740)に道具蔵、また、18世紀前半には居宅、19世紀中頃までに乾蔵・裏長屋門が、古橋組の大工によって建築されたことが棟札などから判明する。庭園は生駒山を借景とするため平庭、回遊池泉式である。

平野屋会所 大東市平野屋1丁目(現存せず)

新田開発終了後の享保6年(1721)に、深野新田の南部が平野屋又右衛門に高分けされ、深野南新田として独立した後に建設された会所であることから、大和川付け替えにともない開発された新田の会所の中で、最後に建設されたものと考えられる。その後、新田と会所は助松屋忠兵衛、天王寺屋八重、銭屋長左衛門の所有となった。

近代になると、だんじりの曳行のために南と東側の周濠が埋められ、また、地主の在住もあって庭園に土塁が築かれるなど、会所としての機能と景観が損なわれた。さらに、数年前には米蔵を焼失し、主屋・屋敷蔵・道具蔵・表長屋門・裏長屋門も昨年取り壊され、現在は座摩神社だけが遺る。



平野屋会所南側にあった表長屋門と会所跡現況

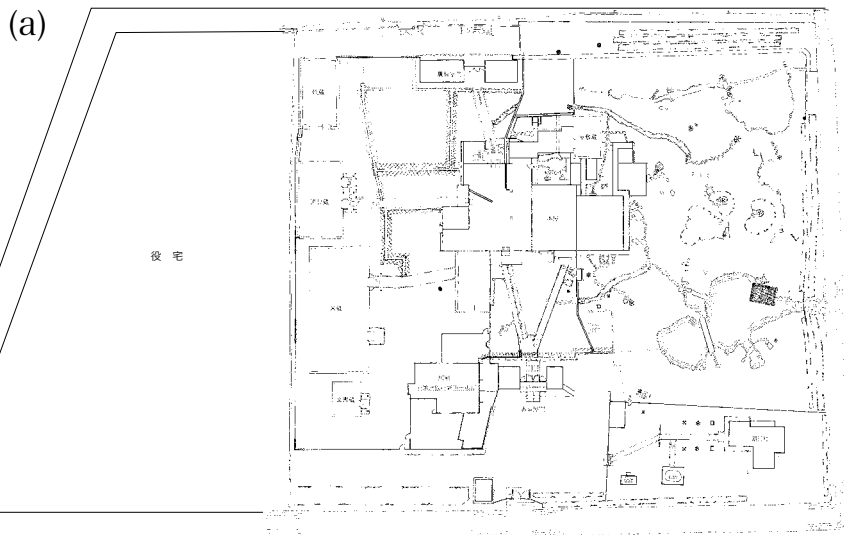
長屋門も現在は取り壊されてなくなっている。跡地には築山や池もなく、土蔵の基礎が遺っているだけである。かつて敷地にあった燈籠や石臼などの石材が散乱しているようすがわかる。

深野会所 大東市深野1丁目(現存せず)

下辻村与惣兵衛と下福嶋村清兵衛が、宝永2年(1705)から開発を請け負った深野新田(後の深野北・深野中・深野南新田)に建設した会所で、その後、東本願寺難波御堂に寄進されたとされる。享保7年(1722)には鴻池又右衛門の所有となり、古橋組大工の絵図面によれば、大破していた会所が新建されるとともに、主屋や米蔵は1.6倍の規模に拡張された。現在は両皇太宮神社だけが遺る。



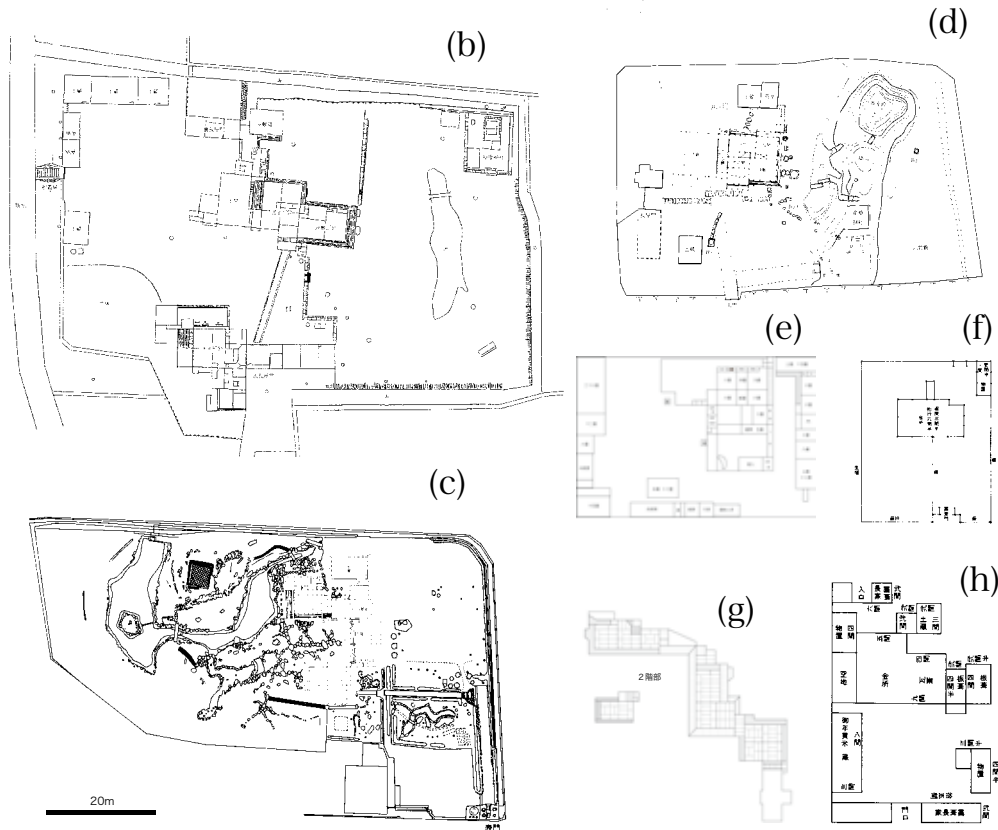
深野会所跡現況



新田会所比較図

(a) 鴻池新田会所, (b) 平野屋会所, (c) 加賀屋新田会所, (d) 吉松新田会所, (e) 安中新田会所, (f) 諸福新田会所, (g) 春日出新田会所, (h) 深野会所

(a),(c),(f),(h) は東大阪市 (1996) 「史跡鴻池新田会所跡・重要文化財旧鴻池新田会所修理工事報告書」より, (b) は大東市教育委員会 (2002) 「旧平野屋新田会所屋敷と建物」より, (d) は東大阪市遺跡保護調査会 (1976) 「吉松新田会所跡調査報告」よりそれぞれ引用・加筆



『平橋家大工組文書目録』にみられる新田会所の記録

新田会所	年号	地主・支配人	内容	文書番号
諸福	元文3 (1738)	吉文字屋	物置・塀の新建	649
深野	享保7 (1722)	鴻池又右衛門	大破に付き新建	509・510
鴻池	宝暦11 (1761)	忠兵衛	4間・9間の建添	729
新喜多	宝暦5 (1755)	今木屋太郎吉	長屋・土蔵の修理	701
同	宝暦8 (1758)	今木屋太郎兵衛	土蔵・納屋・塀の建直	708・1185
同	同	同	門長屋の建継	709・710
同	寛政12 (1800)	同	門長屋の建替	225・補34
同	辰		庇・屋根・板塀の修理	1128

本企画展にご協力いただいた方々に感謝いたします。(敬称略)
 伊丹市立博物館・大阪市立住まいのミュージアム・門真市立歴史資料館・財団法人三溪園保勝会・八尾市教育委員会・八尾市立歴史民俗資料館
 楠 英愛 小谷利明 常松隆嗣
 平橋久光 吉田珠己

平成 21 年度春季企画展

摂津・河内の新田会所

展示解説書

編集・発行 国史跡・重要文化財 鴻池新田会所
 住所 〒578-0974 東大阪市鴻池元町 2-30
 電話 06-6745-6409
 展示担当 井上伸一・別所秀高
 発行日 2009年5月24日
 印刷 株式会社ミラテック



国史跡・重要文化財

鴻池新田会所

http://www.bunkazaishisetsu.or.jp